

【一般演題Ⅰ】

COVID-19感染症を踏まえた内視鏡室における多職種間での感染予防について

九州大学病院 光学医療診療部

○梅田 沙希、馬場 禎浩、伏原 文枝
野中 麻衣、南里 泰子、小島 明子
石村 徳彦、内藤 礼子、安養寺美会子
藤岡 審、森山 大樹、中村 雅史

【はじめに】

A大学病院の内視鏡診療は対象疾患が多岐にわたり、年間約14000件行われている。患者・スタッフを含め多人数が内視鏡室を出入りするため、感染拡大及び2度の緊急事態宣言を受け、2次感染やクラスター発生も念頭に置いた感染対策の見直しが必要となった。

【目的】

多職種間の情報共有の上で感染対策を実施し、2次感染やクラスター発生の防止。

【方法】

I. 流行初期（2020年3月～4月上旬 緊急事態宣言前）

院内感染対策指針のもと、感染対策担当医師と看護師、臨床工学技師、内視鏡洗浄員、事務職員で感染対策について協議のうえ実施する。

II. 感染拡大期（2020年4月中旬以降）

1. 日本消化器内視鏡学会の提言をもとに感染対策マニュアル（以下マニュアル）を作成する。
2. マニュアルに基づき人員配置、検査室運用方法を検討し、シミュレーションを行う。

【結果・考察】

流行初期段階は多職種間での協議を行い、患者全員への問診・検温を開始した。内視鏡スタッフの个人防护具に関してはアイシールドとキャップの着用を追加し、感染防止を徹底した。感染拡大期はマニュアルを作成し、関係部署へ周知した。接触感染リスク軽減のため検査室には看護師1名を固定配置とし、感染疑い者は陰圧室で行った。更に感染症病棟から内視鏡室への搬送経路、エアロゾル汚染に対する養生方法、ゾーニング、患者入室時の準備、汚染物の回収・廃棄方法、个人防护具の着脱の手順などを写真付きで視覚的に掲示した。その後、感染者の緊急上部内視鏡止血術を想定した多職種間でのシミュレーションを行い、手順と役割を確認した。また、シミュレーションはタブレット端末に記録し、動画を用いて各自でトレーニングを行い、手順や認識の統一化を図った。結果、感染疑い患者への緊急検査を円滑に行う事ができ、治療後に感染が発覚した患者もいたが2次感染は起こっていない。

以上により、各職種が感染者対応に必要な行動・役割が明確化され、統一した行動をとれたことが、感染拡大に対応でき、2次感染やクラスター発生を防止できたと考えられる。

【結語】

COVID-19感染症流行下で内視鏡検査を行うために、エアロゾル汚染に対する養生方法、ゾーニング、汚染物の回収・廃棄方法などのマニュアルを作成した。更に多職種によるシミュレーションを実施したことで感染予防が実施できた。

【連絡先：福岡県福岡市東区馬出3丁目1番1号 TEL：092-642-5766】